

# 施策評価シート（平成27年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-1	政策名	子育て環境の充実	政策の 目指す姿	子育てに喜びを感じ、安心して健やかな成長を育んでいます	施策 主管課	こども課	施策主管 課長名	高橋 靖	
	施策No.	2	施策名	家庭の教育力向上	施策の 目指す姿	子どもが基本的な生活習慣を身につけています	関係課名				
	現状と課題	・保護者の就労形態の多様化、核家族化などにより、親子の触れ合いの時間や経験豊かな祖父母などから学ぶ機会が減少しています。 ・子育てにおける保護者の価値観が多様化し、過保護、過干渉、放任などの問題が生じ、生活リズムや食生活の乱れなど基本的な生活習慣が身につけていない子どもが見られます。									

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

### (1) 家庭の教育力向上

- ・就学前教育振興会議を開催した(年3回)。  
 主な議題: 家庭の教育力向上のための取り組み、保幼小連携、等に関する協議
- ・ニコニコガイド(子育て情報パンフレット)などの発行による子育て情報の提供を行った。(ニコニコガイド年1回、広報年2回)
- ・子育て講演会を開催した。(演題: 世界一寂しい・自分に自信がない日本の子ども)
- ・保護者代表者交流会を実施し、子育ての情報を共有し、保護者会活動の活性化や子育ての意識を高めることに努めた。(年1回)
- ・「家族でニコニコチャレンジ」に取り組んだ。(年2回)  
 ※ ニコニコチャレンジ: 幼児期に身につけたい基本的な生活習慣の項目を家族で決めて一定期間取り組み、定着を図るもの。
- ・各園においてニコニコせんせい体験を実施した。参加保護者(公立園分 291人)

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
基本的な生活習慣が身につけている子どもの割合	子どもが心身ともに健康に育つための生活の基盤となる基本的な生活習慣の確立を示す指標	出典: 花巻市(基本的な生活習慣保護者アンケート) 問: 早寝、早起き、朝ご飯・挨拶ができる・ゲーム、テレビ視聴のルールを守るなどが身についていますか。	%	目標値				80.0	80.0	80.0
				実績値	—	79.8	78.3	77.2	77.1	
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■ 成果指標「基本的な生活習慣が身につけている子どもの割合」・・・【達成度b】</p> <p>・基本的な生活習慣の項目の中で「テレビ視聴・ゲーム使用のルール」「手伝い」について親の働きかけが弱いとの傾向が表れており目標値に達しなかったものと考えられる。</p>

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1-1	家庭教育力向上事業	こども課	B	B
	就学前教育振興会議の開催（年3回）			
1-2	家庭教育力向上事業	こども課	B	B
	ニコニコガイドの発行(年1回) 子育て講演会の開催(年1回) 子育て支援研修会（各園1～2回） 保護者代表者交流会(年1回)			
1-3	家庭教育力向上事業	こども課	A	B
	家族で基本的な生活習慣の確立に取り組む「家族でニコニコチャレンジ」に取り組んだ家庭 93.2%			
1-4	家庭教育力向上事業	こども課	B	-
	保護者が保育園や幼稚園において行う、せんせい体験(ニコニコせんせい体験)を通して、具体的子育て方法の理解や園との信頼を築く。体験参加者(公立園分 291人)			

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

(新たに取り組むべき事業はないか)

#### 6 施策の総合的な評価

(課題)  
 ・平成27年度の就学前教育振興会議において、就学前の年長児のICTの活用について調査の提言があり実施の結果、何らかの機器の使用があり、使用の課題として使用時間を守らない、毎日やりたがり気持ちが落ち着かないなどの成長後への影響を感じさせる回答が見られた。  
 ・ニコニコせんせい体験は、保護者が子どもへの具体的な対応について理解が深まり効果的だが、仕事を休んで体験に参加することから、職場の理解の必要性や父親の積極的参加が課題となっている。

(今後の方向性)

・子どものICTの活用について利点を認めながらも、時間を決めた使用などルールを定め活用することについて実態調査の結果などを活用しながら保護者への意識啓発を図っていく。  
 ・保育士体験(ニコニコせんせい体験)に参加しやすいよう、保育園を通じ開催のお知らせを行うなど、企業の理解が得られ保護者が参加しやすい環境になるよう取り組む。